

学番	6 0	県立松代高等学校
----	-----	----------

令和6年度		学校自己評価（評価）					
学 校 運 営 計 画							
学校運営方針		・教科や総合的な探究の時間、特別活動等、様々な場面をとおして、他者と協働しながら主体的に問題を発見し解決に向けた行動ができる力を育成する。 ・地域探究活動をとおして、持続可能な地域社会の担い手として貢献できる人材を育成する。 ・「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」に基づき、引き続き業務の見直しや効率化を進め、生徒と向き合う時間の確保やワーク・ライフ・バランスの実現を図ることにより、生徒と教職員が共に生き生きと通える学校とする。					
三つの方針（スクールポリシー）							
育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）		① 自ら考え、課題を見だし、主体的に判断して行動する力を育成します。 ② 多様な他者とコミュニケーションをとり、協働しながら課題を解決する力を育成します。 ③ 地域への愛着と誇りを持ち、地域社会に貢献しようとする姿勢を育成します。 ④ 自らの将来を主体的に思い描き、その実現に向けて努力し続ける能力を育成します。 ⑤ 社会の中で自立して生きて行くために必要な基礎学力や規範意識を育成します。					
教育糧の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）		① 教科や総合的な探究の時間、特別活動等、様々な場面において、生徒が主体的に考え、課題の解決に向けて行動するような活動を積極的に取り入れます。 ② 地域や大学、海外など、外部との連携を促進するとともに、日常の授業においても、グループ活動で、仲間と意見交換したり、発表したりする機会を数多く設定します。 ③ 総合的な探究の時間や学校設定科目等を通じて、地域と協働した体験的な学習を実施し、地域の魅力をアピールしたり、地域課題の解決に取り組む活動を行います。 ④ 総合的な探究の時間等において、地域産業、地域振興に関する学習や、インターンシップなどを実施し、地域と交流しながら進路を探究する活動を展開します。 ⑤ 少人数学習、スモールステップの指導 I C T の活用等により、個々に応じた丁寧な教科指導を行うとともに、多様な体験活動や交流活動を通じて、規範意識を醸成します。					
入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）		① 学習や部活動、学校行事などの高校生活を通じて、自分自身を向上させたいという気持ちのある生徒 ② 他者を尊重し、互いに協力しながら物事に取り組む意志のある生徒 ③ 地域探究の意義や目標を理解し、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ④ 高校生活で視野を広げ、将来の進路実現に向けて前向きに取り組む意思のある生徒 ⑤ 学習の大切さを理解し、ルールを守りながら学校生活を送る気持ちのある生徒					
昨年度の成果と課題		年度の重点目標		具体的目標			
・「確かな学力」を身につけさせる取り組みでは、1・2学期に教員間での授業参観を行った。今後も継続的に授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の向上を図ることが必要である。 ・キャリア教育の推進と進路希望の実現への取り組みの成果として、12月までに進路希望達成率100%が実現できた。今後もキャリア教育の一層の推進を図りたい。 ・基本的生活習慣の確立と安心して高校生活を送るための環境づくりの充実の取り組みでは、生徒指導件数はほぼなく、いじめの認知件数が増加した。研修を深め、生徒の丁寧な見守りを行う。 ・生徒会活動・部活動の活性化の取り組みを中心として主体的に各種行事が運営された。 ・保護者・地域等との連携強化の取り組みでは、情報の発信を強化し学校の情報が保護者や地域により広く伝えることができるようになりたい。		・生徒の主体的な学びに向けた授業改善と「確かな学力」の育成		生徒が主体的に考え、学習の成果を実感できるような授業を実施するとともに、個々の能力に応じた指導を丁寧に行うなど指導方法を充実させ、「確かな学力」を育成する。			
		・地域探究活動を主軸にしたキャリア教育の推進と志の高い進路実現		地元関係者と協働した地域探究と系統的な進路探究の両輪によるキャリア教育を推進し、生徒が志を高く持ち進路実現するための支援を充実させる。			
		・生徒一人一人に応じた支援と生徒が安心して高校生活を送るための環境づくり		生徒面談の充実を図るなどして、生徒一人一人に応じた支援を行い、規則正しい生活や学習習慣を定着させ、生徒が安心して学校生活を送るための環境づくりを行う。			
		・生徒会活動・部活動、その他課外活動の活性化		生徒が主体的に取り組むよう適切に支援する。自己を高める場であるとともに、生徒の経験値を上げることや居場所としての意義も踏まえ、活動の活性化を図る。			
		・情報発信の充実と保護者・地域等との連携強化		学校情報の発信（ホームページの充実、各種たよりの発行等）を充実させるとともに、様々な機会を通じて保護者、地域の方々との連携を深める。			
		・「教員の勤務時間の上限方針」を意識した働き方		「時間外の勤務時間を1か月 45 時間以内、1年間 360 時間以内にすることを目標に、学校全体で共有した課題を優先に、限られた時間の中で成果が上がるよう努める。			
重点目標	具体的目標	具体的方策				評価	
生徒の主体的な学びに向けた授業改善と「確かな学力」の育成	授業内容の充実と指導方法の改善・工夫	教務	基礎学力の定着と学習の動機付けを高めることを目指し、多面的な評価ができるよう工夫する。			B	B
			教員間の授業参観、授業アンケート、授業に関する研修会を実施し指導方法の改善・工夫を行い、学習への関心と学力を高める。				
	基礎学力の向上	全学年	学習習慣が進路実現に結びつくことを指導し、家庭学習習慣の定着を図る。			B	B
			個人面談で学習状況を把握し、個々の生徒の学力向上に必要な指導を丁寧に行う。				
	進学実力の養成	進路指導	大学・短大・医療系専門学校進学希望者は志望校調べを夏休み前に終了させ、第1志望校合格に向けて目標を持たせ、夏休みを過ごさせる。			B	B
			進学希望校合格や入学後の学ぶ力を身につけさせるため、最後まで学習を継続させる。				
			面接指導・小論文指導を徹底する。				
			小論文指導に携わる指導を充実させ、そのために必要な資料を適切に提供する。				

地域探究活動を主軸にしたキャリア教育の推進と志の高い進路実現	進路意識の高揚	2 学年	2 年生職場体験や進路ガイダンスなどを通して、具体的な進路希望を決定する。	B	A	A		
		3 学年	進学希望者に対し、進学補習や面接および小論文指導を実施する。	A				
			就職希望者に対して、履歴書作成や面接指導を実施する。	A				
			進路指導	進路ガイダンス、進路講演会等を実施し、進路選択を支援する。			A	
		進路指導	生徒にとってより良い進路実現を図るため、進路指導部が学年団・担任との連携を図る。	B			A	
	外部試験等の活用	進路指導	「高校生のための学びの基礎診断」認定ツールを利用し、基礎学力の定着と学習意欲の喚起を図る。	A	A			
			上級学校・公務員・看護などの模擬試験の受験を奨励し、受験に必要な学力を身に付けさせる。	B				
	進路希望実現	進路指導	進学希望者への補習等を工夫して積極的に取り組ませる。	B	B			
			大学進学希望者への面談を実施し、着実に実力を付けられるように支援する。	B				
			進路別の面接指導を実施するとともに、充実させる。	A				
生徒一人一人に応じた支援と生徒が安心して高校生活を送るための環境づくり	学校生活の充実	教務	教科・LHR・行事の時数確保に努め、予定の変更等にも柔軟に対応する。	B	B	B		
		全学年	学校生活への満足度を高め、安心して学校生活を送るために、学校生活状況をアンケートや面談を適宜実施し把握する。	B				
			一人一人に応じた指導を行うことで、欠席・遅刻・早退の少ない規則正しい生活を送るようにする。	B				
			生徒からの相談には真摯に応じ、適宜、組織的対応や外部連携等により対処する。	B				
	規範意識の向上	生徒指導	制服を適切に着こなすようにし、挨拶を励行させる。	B	B			
			服装・頭髪検査を始業式、全校集会等で実施する	B				
			生徒会本部役員、生活委員に「正しい服装」「さわやかな挨拶」を実践させ全生徒に示すとともに、「いじめ予防」の啓発運動を実施する。	B				
		人権同和	人権教育・同和教育、いじめ防止等に関する職員研修を実施し生徒を指導する。	B	B			
			人権同和教育講演会や人権同和教育授業を実施し、生徒の人権意識を高める。	A	A			
	交通安全教育の推進	生徒指導	交通講話を実施する。	B	B			
			バイク実技講習を実施する。	B				
			自転車、バイク保険の加入を推進する。	B				
	健康意識の向上	生徒指導	保健講話を実施する。	B	B		B	
			各種健康診断後の事後措置を適切に実施し、早期受診・治療を促す。	B				
	校舎の美化	生徒指導	私物を整理させ、教室や廊下の整理整頓を励行する。	B	B			
			通常清掃・大清掃・屋外大清掃を徹底させる。	B				
			ワックスがけを実施する。	B				
	生徒会活動・部活動、その他課外活動の活性化	生徒会活動部活動	生徒指導	生徒が主体的に動き、体育祭・球技大会・雪穂祭等の準備を計画的に行い、行事を充実させる。	A		B	B
				速やかな委員会活動を運営させ、部活動を最後まで取り組むようにする。	B			
				部・同好会加入率・継続率を向上させ、上位大会出場者が出るように支援する。	B			
情報発信の充実と保護者・地域等との連携強化	PTA活動の充実	教務	P T A 役員と連携して保護者の P T A 活動への参加を促す。	A	A	B		
	進路情報の提供	進路指導	進路資料を教室に掲示するとともに、進路資料室の利用を促進する。	B	B			
			保護者会で具体的な進路情報を提供する。	B				
			学校と家庭の連携強化	全学年			保護者会の開催や保護者面談の実施により、保護者との連絡を密にし協力関係を築く。	B
	学年だよりを各学年とも月 1 回以上発行する。	B						
	三者面談を実施する。	B						
	地域との連携強化	生徒指導	地域行事やボランティア活動に積極的に参加できる体制を構築し、参加人数を増やす。	A	A			
ホームページ等を活用して、各種学校行事を広報する。			B					
「総合的な探究の時間」の充実	教務	生徒にとって主体的な学びにつながるよう、学年との連携を図り、「地域探究」のプログラムを工夫する。	B	B				
「教員の勤務時間の上限方針」を意識した働き方	業務改善と在校等時間の短縮	共通	勤務時間外に業務に従事する時間を削減するための業務改善に取り組む。	A	A	A		
			時間外勤務の上限目標時間を意識して業務に取り組む。	A				
			定時退庁日を設定し、全教職員で達成に取り組む。	A				
成果	・習熟度別授業や丁寧な面談等により生徒の学習状況を確認することで確かな学力を育成をし、また生徒の希望や適性に合わせた進路指導を行うことができた。アンケート結果からも、90%以上の生徒、保護者から「少人数（習熟度）学習によって授業の理解を深めることができている」「教員は生徒の悩みや意見を親身になって聴いてくれる」の評価を受けた。 ・3年生の就職希望者は、10月末までに就職内定率100%を実現できた。 ・地域との連携や外部での事業は、生徒が地域探究や体験活動を行う中で地域の方々と交流し、一定の達成感を持てたことは成果である。			総合評価				
				B				